

福祉環境委員会記録

令和3年2月12日（金）
08時59分～09時45分
第1委員会室

【委員】柳楽委員長、村武副委員長

沖田委員、小川委員、岡本委員、佐々木委員、田畑委員、澁谷委員

【議長・委員外議員】

【事務局】中谷書記

議題

1 取組課題「子育て支援について」（委員間で協議）

2 その他

【議事の経過】

(開 議 08時 59分)

柳楽委員長

ただいまから、福祉環境委員会を開会する。出席委員は8名で定足数に達しているので、直ちに議題に入る。

1. 取組課題「子育て支援について」(委員間で協議)

柳楽委員長

今日は子育て支援の要望書の最終仕上げをしていきたい。委員の皆に修正案を提出するようお願いしていたが、小川委員から修正していただいたものがタブレットに配信されている。ほかの委員からは特にないということによいか。

かなりコンパクトにさせていただき、見やすい。こういう形でもよいのかと思うが、これについても皆に意見をいただきたい。

小川委員

修正案を委員で出し合って正案をつくるということだったと思うが、要望書ならあまり前書きは詳しくなく、わかる範囲でコンパクトにまとめて、あとは箇条書き程度にしたらどうかという議論ではなかったかと思う。また、フォントを統一した。

前書きの「福祉環境委員会では」というところだが、昨年から子育て支援についてというテーマを掲げた理由は全くなしに書かれている。そもそも浜田市の人口減少問題あるいは出生率低下が問題だということ、そこを何とか維持するためには子育て支援が必要だという背景があり、このテーマをつくったという形で始めたほうがよいと思った。

その後の、孤立化が虐待などにつながる可能性というものももちろんなくはないが、虐待そのものはいろいろな背景や原因が絡む問題で、孤立化している人が全てそうなるとは限らないため、そういう意見を書く必要はあまりないのではということ、テーマに沿って委員会で意見交換や視察を行ってきた中で感じたのが、子育て世代の孤立化への支援と、情報発信や収集の仕方。スマホが使われる方が多い中、孤立化を防ぐことも含めての相談できる体制にどうつながるかが課題ではないかといったところを委員会で議論してきたのではないかと思う。

そういったことをごく簡単にまとめ、その中でほかに出てきたのが公園が欲しいという要望だという形でよいのではと思う。

最終的には子育て支援に取り組むことでUIターン拡大に成果を上げている自治体もあるという観点から、この2点について今回は要望する形だったと思う。

こういった今までの議論の経過と要望の趣旨が簡単に向こうに伝わるだけでまとめてもよいのではと思う。

以下の箇条書きについても必要最小限にとどめ、説明書きでなく端的に、母子手帳アプリの導入を実施されたいとか、公園整備をさ

りたいとか、ストレートに届く形でまとめれば十分伝わるのではないかと思った。

これはあくまで私個人の案である。皆もそれぞれ検討されたと思うので、その中で議論して修正などをしていただければと思う。

澁谷委員 小川委員の案は非常によくまとまっていて、これでよいのでは。あとは正副委員長が原案をつくっているの納得されるかどうか。

リード文の下から3行目あたりは、子育て支援に続かなければいけない。また、母子手帳アプリとはっきり言ってよいのかどうか。子育て支援アプリというように曖昧にしたほうが執行部は喜ぶのではと感じた。正副委員長の感想はどうだろうか。

柳楽委員長 こういう形で、すっきりしているなどと思う。特に自分たちの案をここまで変えられたら困るといったことはない。

澁谷委員が言われた、リード文のあいているところは、あける必要がないのではないかというのは、「また」以降の部分か。

澁谷委員 「意見もありました」の後、3文字分あいている。

柳楽委員長 これはただ単に、作りかえるたびに直してはいたのだが、それができてなかった。ここはもともとつながる予定のものだったと思う。

澁谷委員 そうしてもらったほうがすっきりする。

柳楽委員長 はい。

岡本委員 本当にコンパクトにまとめられているし、意図するところもしっかり入っている。後半の、自治区の遊具云々はこの間協議した。弥栄1点というのは執行部への提言としてどうなのか。その後続くものについて文章的にどうなのだろうと個人的に思っていたが、ここに書かれているように点検するという、それから安全でないものについては取りかえると前向きな形で提言されているので非常によかったと思う。(1)のITのことで我々はいろいろ視察などの取り組みの中で、執行部とのミスマッチも若干あるが、市民との意見交換をやったときのことも、この中に十分反映されている。よいものだと思う。

柳楽委員長 ほかにご意見は。

田畑委員 これでよいと思う。

柳楽委員長 一つ気になったのが「ITを活用した」というのが2行で続けて出てくるのだが、ここは変えようがないのかと。

澁谷委員 はっきり言って一番の要望は、母子手帳アプリというか子育て支援アプリの導入なので。それを委員長も提言書ではなく要望書としても早く渡したいということだったので、その名前をタイトルにつけてもよいと思う。

柳楽委員長 この2行で同じ文字が出てくるところを、例えばどちらかをアプリに変えることがおかしくなければ。

澁谷委員 「子育て支援アプリの導入について」がよい。

柳楽委員長 文章内のところのこと。(1)の2行目に「ITを活用した」とあり

- 3行目にも「ITを活用した」とあり、連続している。
- 澁谷委員
柳楽委員長
それはこのままでよいのでは。
はい。皆はこのままでよろしいか。
(「はい」という声あり)
では、表題の部分についてご意見をいただきたい。
- 岡本委員
澁谷委員
柳楽委員長
「子育て支援策」のところか。
よいのでは。
私もこのままでよいかと思っている。
かぎ括弧はなしで、そのまま「子育て支援策に関する要望書」としたいと思う。
特にほかに文言等で修正したい部分はないか。よろしいか。
(「はい」という声あり)
きちんと仕上げたものを議長にも、こういったものを市長に提出すると確認させていただく。
- 岡本委員
委員長でよいのか、それとも議長が市長に持っていくのかについて、違和感を覚えた。
- 柳楽委員長
産業は正副で行かれたのだったか。産業は要望か何かされたのでは。
- 澁谷委員
議長が入ると全議員が了解したことになる。これはまだ全議員に諮ってないから委員長でと言っている。そこまで厳密ではないのだが、片や政策提言がありそれは全議員でやろうという話になっているのだから、それとは違うということを示すためには、議長を挟まないほうがよい。そのほうが後々に問題にならない。
- 岡本委員
まず議長から、おのおのの委員会に、結論は政策提言の方向にあるのかもしれないが活動を何らかの形で示してほしいというのがあると思っている。委員会が今やっていることを、ある程度着地を見て出すのは議長団に出す。その後は委員会の思い、例えばできるだけ予算に乗せてほしいということを申し入れて、それをどのように扱うか、委員会として要望してもよいかだけ確認して、よければ委員会で出すべきだと私は思う。
- 佐々木委員
これは議長が一応発信して、委員会でやってくれという意向のもとにやっているのでは、委員会がもともと率先してやっているなら委員会だけでよいが、その辺は議長の絡みもあるので、一応こういうことを要望しようと思うがよいかというのは確認は取ったほうがよい。
- 柳楽委員長
もちろん報告はしておかないといけない。では一応正式につくり上げたものを議長に確認していただいて、要望をするということで。
- 澁谷委員
市長の都合を確認して。市長公室に日程を取ってもらって。
- 田畑委員
正副委員長できちんと。
- 柳楽委員長
はい。要望書については今皆からいただいた意見に沿って修正し提出したい。

2. その他

柳楽委員長

次回からは提言のうち、子育て支援アプリと公園の部分を除いたものでつくり上げていきたいが、日程はどうするか。

まず候補としては、おそらく初日には時間がなくて難しいと思う。

(「3月5日の委員会ではどうか」という声あり)

時間がどの程度になるかわからないが、3月5日の福祉環境委員会の議題が全て終わった後にやるということではどうか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにする。

また今回のように各委員会で、こういった文章にしたほうがよいというもの、もとの文章から変えたりする部分は色を変えて提出する形にしていきたい。提出がまちまちになることが多々あるので、全委員に提出していただきたい。よろしく願います。

澁谷委員

まだ提言のレベルにいてないと思う。まだ議論して形を整えるところまでいてない。まだもっと全国の調査をしたり、何かしないと。

佐々木委員

意見を出しても無駄になるとは言わないが、そこに至ってないし、前回副委員長が言っていたオンライン視察などを繰り返した上で、皆が情報を持ち寄ってやるならよいが。現地視察もしていないし、そういうのをやった上でなら。今のままではあまり中身がない。

柳楽委員長

最初はこのテーマで始めてから1年くらい経過している。その中で皆に意見を出してきてもらっている。途中でも先進事例などを皆に調べて提示してもらい共有することなどもやりたいといった話もした。しかしそういうことも出てきていない。そういうものを皆から提出してほしいし、これまでの議論がぐるぐる同じところを回ってきたように私自身は感じている。

岡本委員

委員長の気持ちがふらついているとのことだが、私個人的なことを言うと、今までどういうことを言ってきたかが自分の中に戻ってきてない。福祉環境委員会の延長の中でこれを協議したいというのだから、今まで皆に出してもらったものを再確認してきてくれと。その場でまた進むこともあるかもしれないし、そこで再確認して方向を出すということではよいと思う。今ここで求めて、5日にはしないというわけではなく、そこで皆がやってきたものを再度確認し、また進め方を考えようということにされたらよいだろう。

澁谷委員

委員長の思いはアプリについてとか、要望書になっている。前にも言ったが子育て支援をきちんとしようと思うと、給食費無料化であったり高校生までの医療費無料化であったり、海士町のように第4子以降は出産祝い金100万円という自治体もある。予算編成権のない議会が提案するには、予算のかかることのほうが効果があるものはいっぱいある。しかし今の浜田市で学校給食を無料化しようと思うと2億円かかる。私はそれを提案したいが、全議員がそれを言うか。執行部の予算編成権を侵すくらいのもので提案できるか

というのがまずある。提案するのは簡単だが予算についてはハードルが高いという思いはある。

明石市は離婚した家庭の子どもの養育費を支払えなかったら、行政代執行で裁判所での話し合いの金額を肩代わりし、市が元夫に費用を請求している。そこまでやっている自治体がある。効果を出している自治体もある。そういうことがどんどん言えるかということ、予算編成権がないから僕は言いにくい。

ただ、第3子以降の保育料が無料化になり浜田市は6千万円の負担軽減になっている。その上で第3子の出産祝い金を30万円と、第3子以降の保育料無料化を言っている。しかしその金額を足しても3千万円にしかない。だから残った3千万円分くらいのことなら言えると思うが、ものすごく大きな本当の子育て支援をやりようと思うとなかなか簡単ではない。しかし実際に効果があって成果が出るのはそのくらいの投入が必要だということ。はざまのことをこの委員会でまとめて、次に全議員を納得させるのはそれほど簡単ではない。では、まとめるとは、何をまとめるのかと思う。

柳楽委員長

では、澁谷委員からも提案があったが、それぞれがこういったことが必要だと思われるところについて、例えば先進事例にこういうものがあるからこういうことも子育て支援として必要ではないか、というところを提示していただくということで。

もともとの提言に残り三つの項目があり、それで進めていくところはもうそのままよいということですか。そこまで変えると、多分今までやってきたことが。

澁谷委員
柳楽委員長

委員長の意図されていることがすぐに頭に浮かんでこない。

今、もともとの提言案として4項目あった。子育てアプリに関しては今回要望書として出すので、そこは抜こうというのが前回までの話だったと思う。これから進めていくのも残り三つのテーマに沿ったものの中で、これが必要と思うというところを進めていく、というのはこれまでどおりでよいのか。

佐々木委員

もっと広くやってもよいのかと。とりあえず四つのうち一つを一応要望して、残り三つも大事なことだが、先進市も含めたり専門の方々の子育て環境について今後どのようにすべきかはいろいろな話をされている。そういうのを我々もしっかり共通認識を持っておくのも大事なことだと思う。澁谷委員が言われたように先進事例は先進事例でそれぞれの違いがあり、財政規模もあっての中でやっている。浜田市がそれを真似するのは至難のわざみたいなところもある。相対的に子育ての環境づくりは今後こうすべきという、専門家の声をもう少し我々が共通で知っておくことも大事かと思う。皆それぞれ勉強しておられると思うが、共通という意味合いで。

岡本委員

二人の話聞いて、提言になってないというのもそうだろうと思うし。委員長は三つの中でこれをしたいがどうだろうかと言っているわけで。ほかもあるのではということであれば、今度の委員会の

ときにそれを含めて皆で再度やろうではないかというのをやるべきだろう。原点に戻るのか。

佐々木委員

原点までではないが、何を提案したらよいかわからない中で、それぞれが三つの中で勉強してやっていくのもよいかももしれない。

岡本委員

先ほど養育費の話が出た。この前新聞で養育費不払いについて法整備しようとしていると出た。ああいうものも含めて意見交換をするのもよい着目だと思う。我々の提言につながるかもしれない。法整備はたちまちすぐにはならない。だからお互いに意見を出し合う場を再度つくろうではないかということをお私言いたいのである。

小川委員

言葉として出ていた子育て支援条例を、澁谷委員も時々言われるのだが、例えばそういうことをまずつくりながら具体的に細かい部分を考えていく。僕も給食費無料化をよく言われるが、すごく大事な視点だと思っているし、何とかそれが実現できないかと問題意識を持っている。

ただ、他自治体では確かにU・Iターンが増えて子育て世代が住みやすくて出生率がアップしたということになっていたとしても、以前提出したはじめにでも書いたが、その人が近隣市から来たのならその自治体が減ったということになるし、財政的に余裕があるところならそういう施策も打てるが、余裕がなければそうはならないということになると、結果的には子育て世代の取り合いになってしまい、プラスマイナスでは変わってないということもある気がする。

そうすると提言するにしても自治体の財政など権限の範囲内でできることと、本来国としてやるべきことは明らかにして、それに対しての働きかけも同時にやっていく必要があるのではと感じた。そういうことを考えたときに子育て支援はどうあるべきか、浜田の特徴に合わせて考えたときに、それに見合った形で子育て支援に対する考えた方をまとめるところを柱にした支援条例というか、浜田ならこういったところに力を入れてやるべきではないかということをお柱に持ちながら考えていく必要があるのかと今感じている。

柳楽委員長

小川委員から、条例を見据えた進め方もできるのではないかとということで、澁谷委員からは以前から、条例をつくったらよいのではないかと話が出ていたが。ほかの委員はどうか。

田畑委員

条例をつくるのが一番妥当かもしれないが、先ほど澁谷委員が言われた明石市の話もいろいろ調べてみた。また北海道北杜市、子育て支援の制度がよいから函館市からすごく人間が動いた。そういう地域もある。近隣に大都市がない浜田市が何をしたらU・Iターン、産み育てる環境をつくれるかといえ、条例だけでもそうはいかないだろうし、我々委員会として手早くできるのは給食費の無料化であったりが一番だろうと思いはする。そういったことを条例に盛り込んでやるほどのものかどうかもあろうし。給食費無料化の2億円が今の浜田市の財政指標でいくとそう難しくはない。すぐできそんなことに対して着目して一つずつ前に進めていくのがよいのでは。

柳楽委員長

大きなところから小さいところまでつくるのは、不可能に近いことまで書かないとだめということが起きる可能性もある。すぐできそうなことに目を向けたほうがよいのでは。

もともとが、皆が今子育て支援としてどういったところが必要なのかということで、それぞれに提案されたものをまとめて、その中で多かった意見として四つのテーマを上げていたと思う。皆の意見を聞いていると、そこもフラットな形にしてまた始めるのかなとも思える。

岡本委員

皆がそういう状態のほうがよいということであれば、そうさせていただくが、これまでやってきたことが何なのかなというのがある。

よいのだが、今皆に意見を求めているのは、今度の福祉環境委員会の延長の中に、これまで話し合ったものをどうするか。無料化などいろいろな意見が出ているが、そういうものを持ち上げてくれという解釈でずっと聞いている。そうではなくもう1回この場でフラットにするのかどうか、まとめ上げて今の委員会の延長上の協議に持ってこようとされるのか。そこが私は見えない。言われることはわかる。今まで相談したのはどうなったのかというのもわかるし、そのことについて話し合いを今度したらどうかというのが私の考えである。

柳楽委員長
岡本委員

次の委員会のときに。

そう。例えばの話だが、給食費無料化はどちらかといえば反対である。親の義務があるから。だからそういったことを議論したい。だから、その場を今度のときに設けたらどうかと。この場で方向性をつけようなど私は無理だと思う。例えば今の例がそう。そういったことを次の委員会で話し合うべきではないか。

柳楽委員長

残り三つのテーマ以外も含めて議論をするということか。皆それをお望みか。

澁谷委員

今までの議論が無駄になったとは思わない。アプリの要望も今までのことを通して結果が出ているわけで。要望書を出すだけでもすごいことだと思うし、今まで視察に行ったことも、弥栄に行って公園のここの意見を聞いたのも結果的に無駄にはなっていない。成果、要望が出ただけですすごいことである。

ただ、提言書となると意見の統一が必要である。本当はまだ国の政策がある。その国の政策を待っていれば浜田市が消滅する。人口減少をとめられない。都市間競争内でのまちづくりというものがある。それを全国1800の自治体がそれぞれ競っていればここまで衰退しない。国のやることを待っているから皆衰退している。

自治体で何かを削減して行って、その予算をつければ、何億の予算ができるはず。しかしそれを執行権のない議会が提案するには限度がある。議会側としてどういう提言ができるかということもある。その難しさの中での発言になる。

岡本委員

だからそういうものも含めてやろうと言っている。

村武副委員長

最初は提言として案を出して、その中から早急にということで今回アプリの件を要望に回した。そうなるこれから考えていく提言書の中からアプリはなくなる。多分提言書をつくらうとする最初の大きな柱の一つにこのアプリはあったと思うので、それがなくなると提言書としては弱いと感ずるので、皆が言われるようにもう一度話し合う必要はあるのかなと感ずる。

今までやってきたことが無駄になることはないので、それをもとにしてということだと思ふ。

柳楽委員長

了解した。次の委員会では今言われたようなそれぞれが必要だと思ふことを出していただき、それについて委員間で意見を出し合う形にしようと思ふ。それぞれの委員が、自分はこのことについて必要だと思ふものを持って出席していただくようお願いする。

澁谷委員

その項目を事務局に出して整理してもらっておくとか。

柳楽委員長

1日には皆の意見を事務局に提出して、それから5日までの間にそのことについて自分の意見も考えていただいて。

田畑委員

3項目プラスアルファでよいのか。

澁谷委員

皆で意見を出し合う項目を出そう。

佐々木委員

そうではなく今後のこの委員会の進め方だろう。僕は皆で共通認識を持つべく勉強したいとか。

柳楽委員長

それも含めて。

岡本委員

考え方というよりは、今とりあえず出したのでどうかということ、いやそれでは足りないのではないかと、提言にならないではないかという言葉が出たので。いろいろな意見を出して、その辺を再スタートというか。

佐々木委員

考え方。

岡本委員

考え方というとも間違えそうだが。

澁谷委員

具体的な案を出そうということだろう。提言につながるものを。その中で勉強しようということだろう。

田畑委員

4項目のうち残った3項目をどう思うかだろう。

澁谷委員

20項目あったのを皆考えてこない。

岡本委員

私もその場で議論したほうがよい。

佐々木委員

20項目とは何か。

澁谷委員

例えば皆で考えてきたら20項目くらいになる。それについて一つ一つ意見を持ち寄る、意見を出し合えばよいのでは。

佐々木委員

項目は給食費だとか医療費だとか、そういう具体的なものではなく、進める考え方みたいなどの意見を出すのか。

柳楽委員長

項目で具体的にこういったものが子育て支援策として必要だということでは出していただきたいが。

佐々木委員

この前出し合ったものをまとめた4項目だった。それをもっと広げるためにやるのか。

柳楽委員長

私はそう思っているのだが、どうもそうではなくもっと違うところも入ってくるのではないかと意見のようなので、とてもまと

岡本委員

まらないと思う。

要は提言になってないから提言書になるような方向性で進めないといけないのではないかという意見が出たから。もちろんそこに進めようとするのだけど、このままではちょっとどうかなという。そこに着地していかないといけないのだろう。やり方はそこに伴って、ポイントがあればポイントに、本当に提言につながるようなほかの意見もありはしないかと。そのつながりでまとまるようにしようというのが一つの狙いだろうと私は思っているのだが。やり方ということではなくて、提言をしようというのが核にあるのだから。

柳楽委員長

では、これまでもあったが進んできている中でまた逆戻りしないといけないような状況も生まれてきているので、佐々木委員が言われたように、どういう進め方をしたほうがよいかも皆から思いを出していただきたい。こういう進め方が理想的だというものを、それぞれの意見を提出していただきたい。

また、こういった子育て支援が必要だということのテーマというか、問題点も改めて出して意見交換をさせていただくということにしたい。それでよろしいか。

澁谷委員

柳楽委員長

委員長はいつごろに提言を考えているのか。6月か8月か9月か。

前にも言ったが、できれば6月の定例会議くらいまでのところでまとめたほうがよいのではないかと。ただ、それをつくるということだけで期限を区切ってやるのがどうなのかという議論もこれまであったと思うので、皆がそこまで仕上げようということであれば前向きな方向で日程もタイトにしながら進めなければいけないと思う。一応、以前示させていただいたのは6月定例会議くらいまでに。

ほかにはよいか。

(「はい」という声あり)

提出期限は3月1日でよいか。

(「はい」という声あり)

では3月1日までに事務局へ提出をお願いします。

ほかになければ。

(「はい」という声あり)

では以上で福祉環境委員会を終了する。

(閉 議 09時 45分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員長 柳楽 真智子 ㊞